

レジデントが知るべき 整形外科基本手技

introduction

本特集号のテーマは、『レジデントが知るべき整形外科基本手技』とし、整形外科専門医を目指す専攻医を主な対象としますが、初期研修医をも幅広く対象とし、「レジデントが知るべき」と銘打って、整形外科診療に重要な基本手技に関する特集を企画しました。整形外科専門医となるためには整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身に付けなければなりません。

本書では、整形外科専門研修プログラムの統括責任者やサブスペシャリティ領域の指導医の先生方にご執筆いただき、構成しました。レジデントが知るべき運動器疾患の診察の基本手技（総論、脊椎、肩・肘・手関節、股・膝・足関節）や代表的疾患（関節リウマチ、末梢神経疾患、小児整形外科疾患）の診察基本手技を端的に解説いただきました。また、関節穿刺・関節注射・関節造影、脊椎造影、神経根ブロック、神経根造影などの特殊検査・診療手技や、基本手術器具の使い方と創処置および筋・筋膜・腱縫合、末梢神経縫合および血管縫合などの特殊手術技能についてもわかりやすくご寄稿いただきました。さらに、骨折に対する初期治療や創外固定、および関節鏡の要点や盲点を的確にお纏めいただきました。

ご執筆いただきました先生方におかれましては、将来の整形外科専門医の育成のために新型コロナ禍の大変な中で貴重な時間を割いていただきました。紙面を借りて、心より厚く御礼申し上げます。

読者の皆様におかれましては、どうか本書を机上に置かれ、整形外科習得の一助になれば編集者として望外の喜びであります。改めまして、ご多用の中、精力的に執筆作業をこなし貴重な原稿をお寄せいただいたすべての執筆者の皆様に、編集者として厚く御礼申し上げます。

島根大学医学部整形外科学
内尾祐司